The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 利用学生の声　サイバーメディアフォーラム no.8 CALLシステム |
| Author(s) | |
| Citation | サイバーメディア・フォーラム. 2007, 8, p. 42-43 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/70253 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 利用学生の声

私は昨年度、日野信行先生の英語授業を受けるにあたり、サイバーメディアセンターの CALL 教室を利用することとなった。パソコン画面を前にした授業形態に、当初は戸惑うこともあったが、最終的にさまざまなものを得られたと感じている。
日野先生の授業では、CALL 用教材や英語教育用ウェブサイト等ではなく、授業当日の英語ニュースといった生の英語が対象として扱われる。今まで見たこともなかったような、世界のさまざまな英語にリアルタイムで触れられたことは新鮮であった。さらに、生の英語に触れるのみならず、社会で今、現実に起こっていることを多少なりとも理解するきっかけとなった。インターネットを利用することで、世界中の英字新聞をその場で読み比べることができる。同事件を扱った記事でも、発信者により表現のされ方、焦点の当たり方はさまざまであった。それはまた、メディア・リテラシーの必要性を意識する機会ともなった。
授業を終えてからは、英語のニュース、文献等の資料を参照することにも抵抗が少なくなったと感じる。このような意味で、様々な方面に対し、視野が広がったと思っている。単に英語活動を傍観するのではなく、自らが手段として英語を使う、つまりは英語ユーザーになるという立場のシフト感覚を得たことが、私にとって大きかったように思われる。
**********
私は一年次と二年次のフランス語の授業で CALL 教室を利用しました。その内実ですが、PowerPoint を用いた授業、フランスの News 番組を教材とした授業、フランスのオペラを教材とした授業、等やはり視聴覚を重視したものが多いです。リスニングや発音といった、古典的な教室形態ではなかなか訓練しにくく、また多くの学生がコンプレックスを感じている分野をカヴァーしており、学生のニーズに答えた教室と言えそうです。
次に、個人的に役に立ったことを述べます。私はフランス語の授業を受講していたのですが、フランス語を学ぶとなれば、動詞の活用を暗記するということが必須です。これはフランス語を学ぶ人がぶちあたる最初の壁です。そこで担当の先生が授業の後半に、ある先生の作ったホームページで動詞の活用の練習をさせてくれました。その名も「活用虎の穴」。一見変な名前ですがこれがまたすぐれものなんです。このおかげで私のフランス語クラスの大半が容易に動詞の活用という壁を乗り越えました。これも CALL 教室のおかげといっても過言ではないかもしれません。
あと、意外な利点があります。パソコンでノートが取れるのです。間違えても消しゴムを使うより簡単に消せますし、コピーしたり切り取ったりとすごく便利です。それになんといってもノートを忘れても大丈夫。今まで悩まされてきたノートの様々な欠点をカヴァーしてくれます。
最後に、CALL 教室で受けた衝撃を述べましょう。なんとパソコンでテストをするのです。人生初の体験です。テストの画面にはテスト終了まであと何分かが表示され、正直あせります。そして制限時間が来れば強制終了。なんと公平かつ冷酷なテストなんだと感じたのを覚えています。タイピングもままならなかった頃の私は必死でタイピング練習をしました。なんといっても制限時間が来れば強制終了なんですからタイピングができなければたまったもんじゃないです。そのおかげで今はブラインドタッチができるようになったのですが(これも CALL 教室のおかげ？)。そしてこれもまた衝撃ですが、テストが終われば一瞬で採点され、間違えたところ、点数、偏差値が表示されます。それらは保存されますので何度も復習でき、すごく便利でした。
余談ですが、CALL 教室の公平かつ冷酷な点を一点紹介しておきましょう。CALL 教室ではパソコンにログインすることでログインした日時が記録され出欠が確認されます。つまり遅刻すればきちんと遅刻の記録が残ります。なんと公平かつ冷酷なシステムでしょう。もっとも、このシステムを利用するしないは担当の先生によりけりですけれども。
以上､簡単ですが CALL 教室を利用した感想でした。

**********

私は、フランス語の授業でCALL 教室を利用しています。フランス語の基本文法を勉強していた１年生の時には、平常の授業時はもちろん、CALL 端末を使って動詞の活用を覚え、他クラスと競ったことが印象に残っています。また、中間試験や学期末試験もCALL 端末を使って行なわれました。最初は戸惑いましたが、慣れてくると試験勉強もし易く、とても効果的に学習できたと思います。

２年生の前期では、読解の授業でCALL 教室を利用しています。課題として、フランスのニュースや歌劇『カルメン』、ミュージカル『ノートル＝ダム・ド・パリ』などの原稿や脚本が出されましたが、訳すだけでなく、実際の映像を見ることができたので、難しいフランス語の文章にも興味を持つことができ、楽しんで授業に取り組むことができました。ただ辞書を引いて意味を調べるだけでは、フランス語の面白さは半減してしまうと思います。実際に見て、生の発音を聞いたり、音楽を楽しんだり、フランスの生活風景や文化に触れることによって、私は構えることなく、フランス語に親しむことができるようになりました。『見る・聞く・話す・書く』、この全てができるところが、CALL 教室のとてもいいところだと思います。